

2 在中国公使館昇格問題

71 昭和9年7月17日 広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

日中間大使交換の機運につき照会

本省 7月17日後0時発

(館長符號、極秘)

曩ニ貴公使御歸朝中日支間大使交換問題ニ付支那側ト内密話合方御打合シ置キタル義アル處貴方ニ於テ右話ヲ切出サル、迄ニ未タ機運熟シ居ラサル次第ナルヤ念ノ爲貴見同電アリ度

72 昭和9年9月3日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

中国側は日伊兩國同時に大使交換を実行したいとの唐有壬内話について

上海 9月3日後発
本省 9月3日後着

(館長符號扱)

(1) 七月廿三日附館長符號往電大使交換問題ニ關シ其ノ後七月廿七日唐有壬來訪ノ際本使限リノ單ナル思付トシテ貴方ニ於テ希望セラルルニ於テハ此ノ際大使交換方本使ヨリ我政府ニ提議實現ヲ試ムヘキ旨申傳ヘタル處唐ハ其ノ好意ヲ謝シ實ハ宋子文ト此ノ際伊太利ヨリ大使交換方希望ノ申出アリ今次劉公使ノ歸國ノ用向ノ一ツトモ認メラルルモ同國トハ格別密接ナル關係アルニ非ス

(2) 先方ハ武器ノ賣込位ニ重キヲ置クモノナルヘキモ當方ニアリテハ餘リ各國ヨリ武器ヲ賣込マルコトハ統一上實ハ迷惑ニ感シ居ル所ニテ旁其ノ儘別段詮議モセス放任シ居ル次第ナルモ貴國ニ對スル關係ハ全然趣ヲ異ニシ現ニ王正廷外交部長時代ニ重光公使ニ希望ヲ申入レタルコトモアリ何レ汪院長トモ相談ノ上何分ノ儀申上クヘシト答ヘ居タルカ八月三十日廬山出發歸京セリトテ九月一日來訪本件ハ先ツ汪院長ノ贊意ヲ得タルカ之カ實施期ニ付テハ駐伊劉公使モ數日中歸國ノコトニモアリ(往電第六四四ノ三)日伊兩國ニ對シ同時ニ實行シタキ希望ナリト申出テ之カ理由トシテハ曩ニ申上ケタル通り伊國ハ公然ニハアラサルモ前々ヨリノ申込ニモアリ

(3) 且又内政上ヨリスルモ兩國同時ニ實行スル方一部反對派ノ策動ニ對スル上ニモ便利ナル點ヲ擧ケタリ依テ本使ハ本件ハ本使個人トシテ思付キタルコト曩ニ申述ヘタル如クニシテ從テ之カ實現ノ爲ニハ貴方ノ希望トシテ政府ニ傳達スルコト機宜ニ適スヘシト申含メタル處唐ハ實ハ最近蔣作賓ヨリ來電アリ重光次官ヨリ同様ノ申出アリタル由既ニ部内ニモ傳ヘラレ居リ且ハ東京發新聞電報ハ日本側ニ於テハ大使館昇格ノ準備中ナル旨通信シ居ルコトトテ

(4) 當方ヨリ希望トスルコトハ何カト支障ヲ起シ易キニ付雙方希望一致セリトノ形式トスルコトト致サレ度キ旨續述シ居タリ尙伊太利側ハ非公式トハ言ヘ先方ヨリノ申込ナレハ劉公使歸國ノ上ハ容易ニ話ハ纏マル見込ナル旨且英國等ハ今尙大使交換ノ意思ナキモノト認メラレ從テ唯今ノ處是等諸國ニハ何等話合若ハ通知ノ考ナキ旨ヲモ附言シ居レリ本件ハ當初ヨリ本使個人トシテノ私案ナル旨申含メ唐ノ回答モ全然私人トシテノ探リニ止マル旨本人ヨリモ申出テ居ル次第ニ付若シ本件ニ付此ノ上話ヲ進ムル必要アル場合ニハ御訓令次第更ニ必要ナル工作ヲ施スコトト致スヘク何分ノ儀御同訓ヲ請フ

73 昭和9年9月26日 広田外務大臣より
在伊國張聞(利春)臨時代理大使、在米國藤井啓之助臨時代理大使、在中國有吉公使他宛(電報)

中伊間大使交換を決定した旨在本邦伊國大使より通告について

本省 9月26日後6時30分発

合第一〇四六號

二十六日伊太利大使次官ヲ來訪シ本國政府ノ訓令ニ依ル趣ヲ以テ同國ハ支那トノ間ニ大使ヲ交換スルコトニ決定セリ右ハ昇格實現ノ際伊太利政府ニ於テ公表ノ筈ナルニ付夫レ迄ハ發表セラレサル様願度シト述ヘタリ

本電宛先 伊、米、滿、支、北平、南京、廣東、伊ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及壽府へ轉電アリタシ

74 昭和9年9月27日 在英國松平大使より
広田外務大臣宛(電報)

中伊間大使交換に関する英國外務省極東部長内話について

ロンドン 9月27日後発
本 省 9月28日前着

第四八六號

貴電合第一〇四六號ニ關シ(伊、支大使交換問題)

二十七日午後加藤ヲシテ極東局長ヲ訪問セシメタル處同局長ハ二十五日夕在英伊國代理大使同局長ヲ訪問シ貴電ト同様ノ趣旨ヲ述ヘタル處右ハ單ニ儀禮的ノ通報タルニ止マリ協議ノ形式ナラサリシニ付自分ハ本件ニ付關係國ニ於テ豫メ協議ヲ要スル筈ノ問題ナルコトヲ不取敢輕ク注意シ置キタルカ右伊國ノ決定ハ英國側ノ甚タ意外トスル所ニテモアリ又英國トシテハ頗ル「オウクワード」ノ立場ニ置カレタル次第ナリ尙二十七日午後「バンシタルト」次官更ニ伊國代理大使ノ來訪ヲ求メ英國側ノ意嚮ヲ傳フル筈ナルカ本件ニ付英國側ノ執ルヘキ態度ニ付テハ未タ決定シ居ラスト語レル趣ナリ

米、佛、伊ヘ轉電シ獨、露、白ヘ暗送セリ

75 昭和9年9月28日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

中伊間大使交換決定の経緯を唐有王説明の上
我が方に対し同時実行方要望について

南京 9月28日後発
本 省 9月28日後着

第九六九號(至急、極秘)

貴電合第一〇四六號及往電第九一二號等ニ關シ二十八日求メニ依リ唐有王ト會見ノ際唐ハ曩ニ伊國側ヨリ支那側ニ於ケル飛行機買入ヲ條件トスル大使交換ヲ申出テ來リタルカ先般歸國ノ際劉文島ヨリ伊國ハ右條件ヲ固執セサルヤノ報告アリタルヲ以テ伊國側ニ對シ無條件ナラハ應諾シ差支無キ旨申入レ置キタル處二十五日同公使ヨリ無條件ニテ交換ニ同意ノ旨申出テアリ二十六日同公使トノ間ニ簡單ナル文書ヲ以テ交換ノ約束ヲ遂ケタリ伊國ト同時ニ日本トモ大使ヲ交換シ度キ從來ノ支那側希望ニ基キ即日蔣公使及周珪ヲシテ夫々重光次官及有吉公使ニ對シ支那ハ日本ト大使交換ニ決定セル旨(何レヨリ申出テタルカヲ明示スルコトナク)申入ルル様電報シ置キタリ日本側トノ大使交

換ハ伊國側ノ決定意外ニ早カリシ爲手續上遅レタル次第ナルカ事情前述ノ通りナレハ御了解アリ度英米佛等ヨリモ嘗テハ本件ニ關スル話アリタルモ具体的ノ申出ニハ接シ居ラサリシ處今回伊國トノ條約ニ依リ相當驚キ居ル模様ナリ又劉文島ハ結局大使トシテ歸任スルコトナルヘシト内話シ居タリ
尙其ノ際唐ハ土支條約ノ締結ニ伴ヒ最近土耳其ヨリ公使交換方申越シ居リ豫算ノ許ス限り右ニ應スル方針ナリト語リタリ
支、北平ニ轉電セリ

76 昭和9年9月30日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

中国政府は在本邦同国公使館の大使館昇格を

決定した旨外交部より通報について

上海 9月30日後発
本 省 9月30日後着

第七九五號(極秘)

南京發閣下宛電報第九六九號ニ關シ(伊支大使交換ノ件)

一、二十七日周珪來訪唐有王ヨリ電報アリタル趣ヲ以テ政府ハ在東京公使館ヲ大使館ニ昇格スルコトニ決定シ右ニ關シ唐有王二十九日來滬ノ上本使ニ面談シ度キ旨申入レ
二、二十九日午後唐來訪冒頭電報須磨トノ談話ト略同様ノ説明ヲ爲シ伊國側トノ交渉ノ意外ニ速ニ決定セル事情ヲ述ヘ實ハ右發表ハ支那側トシテハ今暫ク見合セ度ク伊國公使トモ打合濟ナリシモ二十七日羅馬發電ニテ新聞紙ニ報道セラレタルニ依リ致方ナク同公使トモ打合セ急遽發表セル次第ニテ

三、日本ハ既ニ大使昇格ノ議ヲ決セラレ曩ニ議會ノ協賛ヲ經必要ナル經費ヲモ用意シ居ラルルコトナレハ今次伊國トノ大使交換ト同時ニ國民政府ニ於テ大使昇格ノ決定ヲ蔣公使ヨリ重光次官ニ通達セシムルコトニ取計ヒタル次第ナリト言ヒ

四、劉公使等ノ推測ニ依レハ「ムツソリーニ」ハ愛婿「チャノ」ヲ初代大使ニ任命セン下心ナルカ如ク今回昇格ハ主トシテ「チャノ」ノ運動ニ基ケルモノニテ急遽事ヲ運ブニ至リタル一ニ「ムツソリーニ」ノ命令ニ基クモノト察セラレ更ニ伊國ハ大使館ヲ南京ニ移ス考案ヲモ有シ居ル

如ク伊國公使二十六日來京ノ節南京ニ於ケル外交團區域
乃至大公使館敷地等ニ付種々問合ノ次第アリタリト語レ
リ

南京、北平へ轉電セリ

77 昭和9年9月30日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

中国側よりの大使交換日伊兩國同時実行方要

望につき対応振り請訓

上海 9月30日後発
本省 10月1日前着

(極秘、館長符號扱)

九月二十七日附館長符號扱電報ニ關シ

本月二十九日唐有壬來訪伊國側ヨリノ申込ニハ飛行機等賣
込ニ關スル條件附ナリシニ付無條件ナラハト應酬シ來リタ
ル處本月二十五日突然無條件ニテ昇格ノ旨伊國公使ヨリ通
知アリ二十六日同公使來訪同夜非公式晚餐席上同公使ノ發
意ニ依リ双方交換スヘキ簡單ナル文書ノ草案ノ起草ヲ爲セ
ルモ之カ發表ハ自分トシテハ貴公使ニ對スル話合ノ次第モ

本件ニ付唯今何等我政府ノ意嚮ハ承知セサル旨申傳ヘタル
處唐ハ本件促進上必要ナルニ於テハ形式トシテ自國政府ノ
希望ニ基クモノトスルモ自分個人トシテハ不可ナカルヘシ
ト考フルニ付取扱方充分盡力スヘク伊國トノ交渉ハ纏マリ
タルモ之カ實行ハ來年ノコトトナルヘキニ付右ニ先シシ
非日本側トノ大使交換ヲ了シタキ自分等兩人ノ希望ニ付
至急右實現方斡旋アリタキ旨申シ居タリ依テ本使ハ御希望
ノ旨ハ篤ト大臣ニ傳達スヘキモ何等カノ事情ノ下ニ本件實
現遲延スルカ如キ場合ニ一方カ他ノ申込ヲ拒絕セリトカ
色々ノ「デマ」ヲ飛ハスカ如キコトアラハ折角兩國國交増
進ノ爲ノ盡力モ却テ反對ノ結果ヲ招ク虞多分ニ有レハ充分
注意願ヒタシト申添ヘタル處唐ハ其ノ點汪院長モ憂慮ノ上
既ニ新聞紙ニハ差止ヲ命シアルニ付日本側ニテモ充分御注
意願ヒタシト申出テタリ唐ノ口吻ニ見テ本件急速實現方多
大ノ希望ヲ置キ居ルモノト察セラルルニ付今後ノ應酬振ニ
付至急何分ノ御回電ヲ請フ

アリ

今暫ク時機ヲ待ツコトニ汪部長トモ話合ヒ伊公使トモ打合
セ置キタル處二十七日ニハ羅馬ニテノ公表アリ事務次長徐
謨モ已ムナク當時上海出張中ノ係員ニ電話シ伊公使ト共ニ
發表スルニ至リタル次第ナリトテ事咄嗟ニ出テ事前ニ打合
セ兼ネタル事情ヲ縷々説明シ本使ノ諒解ヲ求メタル上更ニ
本件ニ付テハ重光次官ヨリ二回ニ亘リ蔣公使ニ御話アリタ
ル旨電報ニ接シ居リ且日本側ニ在リテハ既ニ準備モ整ヒ居
ルトノコトニ承知シ居レルニ付

旁今回伊國側ト同時ニ日本側トモ昇格ノ議ヲ決シ右ヲ蔣公
使ヨリ重光次官ニ通告スルコトニ取計ヒ一回ハ汪部長ヨリ
一回ハ外交部ヨリ既ニ同公使ニ訓電濟ナリト申出テタルニ
付本使ハ曩ニ自分ヨリ本件ニ關スル提案ハ全然個人トシテ
ノ私案ナル旨ハ再三申上ケタル如クニテ其ノ後貴下ノ御回
答モ私人トシテノ御探リヲ願ヒタルニ止マル旨ヲモ申添エ
卑見トシテ大臣ノ手許ニ提出シアルモノ今日迄實ハ何等ノ消
息ナク重光次官ヨリ蔣公使ヘノ談話ナルモノモ曩ニ御話ニ
依リ初メテ承知セル位ニテ何ノ程度ニ話シサレタルヤモ分
ラス

78 昭和9年10月2日

広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

日中間大使交換に關する重光次官と在本邦中

国公使との会谈内容通報について

別電 十月二日發広田外務大臣より在中国有吉公使

宛第二六二号

右会谈要旨

本省 10月2日後7時發

第二六一號(極秘、館長符號扱)

九月三十日附館長符號ノ貴電ニ關シ
九月三日及二十七日并右三十日附貴電ノ件ニ付テハ尙篤ト
考慮ノ要アリ目下慎重研究中ナルニ付改メテ回訓ノ筈ナル
カ重光次官ト蔣公使トノ二回ノ談話ノ内容別電第二六二號
ノ通不取敢電報ス
尙本件經緯ニ關シテハ須磨總領事ニ對シテモ適當ニ「イン
フォーム」シ置カレ度

(別電)

本省 10月2日後7時發

第二六二號(極秘、館長符號扱)

第一回、八月二十四日柳光亭ニ於ケル重光次官ノ蔣公使招待會ノ際同公使ハ昇格問題ニ關スル數日前ノ新聞記事ニ言及シ事情ヲ尋ネタルニ付次官ハ昇格問題ニ付テハ往年度々支那側ヨリ熱心ナル希望ノ申出アリタルカ其ノ儘トナリ蔣公使任命ノ當時モ自分ノ地位ニモ鑑ミ昇格實現セサリシ次第ナリ尤モ日本ハ已ニ豫算モ成立シ居リ主義上ノ異存ハナク且ツ有吉公使ハ既ニ大使ノ「ランク」ヲ有シ居リ旁々今日ハ當時トハ事情餘程異リ來リタル譯ナリト告ケ置キタル由

第二回、九月二十九日蔣公使重光次官ヲ外務省ニ來訪シ前記談話ノ續キトシテ大使交換ハ支那政府ノ希望シ歡迎スル所ナリト申出テタルニ付次官ハ右意嚮早速大臣ニ取次クヘシト答ヘタル由

79 昭和9年10月8日 在英国松平大使より
広田外務大臣宛(電報)

英国は在中国公使館を大使館に昇格させる必要を認めない旨英国外相内話について

回答について

付記一 十月四日付在本邦クライブ英国大使より重光(葵)外務次官宛書簡

中国との大使交換は現在その時期ではなくまた列国との協議なく実施しないとの英国側意向について

二 十月九日付重光外務次官より在本邦クライブ英国大使宛書簡

中国との大使交換は主義上決定しておりその実行時期決定の際は速かに通報すべき旨回答
本省 10月9日後8時発

合第一一〇六號

十月一日英國大使重光次官ヲ來訪シ伊[○]支間大使交換問題ニ付應答アリ次テ英國大使ヨリ次官宛「英外相ヨリノ電報ニ據レハ英國政府ハ伊太利政府ニ對シ大使館昇格問題ニ關スル一九一九年ノ一般的諒解並ニ一九三三年五月支那ニ關スル伊太利政府ノ特別ノ言明ニ鑑ミ伊太利ノ大使館昇格決定ニ對シ英國政府力不滿ノ念ヲ有スルハ當然ノ儀ナル旨通告シタル趣ナリ英國政府ノ見解ニ依レハ支那政府ノ歡心ヲ求

第四九一號

貴電合第一〇四六號ニ關シ

八日「サイモン」ト會談ノ際伊國ノ在支公使館昇格問題ニ關シ英國ハ如何ナル措置ヲ執リタルヤヲ尋ネタル處「サ」ハ英國ハ大使ノ地位ヲ極限^(局之)シ居ル關係モアリ旁此ノ際在支公使館昇格ノ必要ヲ認メサルヲ以テ右意嚮ヲ日、米、佛、獨等ノ關係諸國政府ニ通報セルカ之ニ對シ佛及米ヨリハ何レモ英國ト同意見ノ旨ヲ回答シ來レリ日本ヨリハ未タ回答ニ接セサルモ若シ日本ヨリモ同意見ナル旨ノ回答ヲ得レハ大ニ好都合ナリト語り居リタリ
米、在歐各大使(土ヲ除ク)壽府へ轉電セリ

80 昭和9年10月9日 広田外務大臣より
在中国有吉公使、在英国松平大使、在米國藤井臨時代理大使他宛(電報)

中伊間大使交換に關する在本邦英國大使より
の英國側意向通知およびこれに対する我が方

メムカ爲メ伊太利政府ノ例ニ倣ハントスルノ企テハ總テ忌避セラルヘキモノニシテ英國政府ハ在支公使館昇格ノ時機熟セリトハ思考セス又他ノ關係國即チ日米佛ト豫メ協議スルコトナクシテ斯カル措置ヲ執ルコトヲ考慮シ居ラス」トノ趣旨ヲ述ヘ更ニ昭和四年昇格ノ件カ問題トナリタル際ノ「チレー」大使ト吉田次官トノ會談内容ヲ引用シタル四日附書翰ヲ送付越セリ(尙五日ニモ次官ヲ來訪シ右書翰ト全趣旨ヲ述ヘタル趣ナリ)仍テ右ニ對シ次官ヨリ前記兩度ノ會談ノ際答ヘタル趣旨ヲ以テ大要別電合第一一〇七號^(編注)ノ通九日附ヲ以テ回答セシムルト共ニ本件經緯ヲ參考ノ爲在京米國大使側ニモ轉達方取計ハシメ置キタリ尙佛國側ニ對シテハ本大臣曩ニ全國大使ニ會見ノ際伊支大使交換ノ件ニ對スル質問ニ對シ右回答ト略ホ全趣旨ヲ告ケ置キタリ
本電宛先 支、北平、南京、廣東、滿、英、米
本電別電ト共ニ英ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及壽府へ轉電アリ度

編注 別電合第一一〇七号は本文書付記二の重光外務次官

より在本邦英國大使宛書簡を若干削除して發電した

(付記1)

BRITISH EMBASSY,
TOKYO.

4th October, 1934.

My dear Vice-Minister,

You will remember my asking you a few days ago whether the recent announcement in the Press, that the Italian Government had decided to raise their Legation in China to an Embassy, had been considered by the Japanese Government.

To-day I have received a telegram from Sir John Simon informing me that the Italian Government have been informed that, in view of the general understanding as to new Embassies, reached in 1919, and their specific assurance relating to China, given in May, 1933, His Majesty's Government feel legitimately aggrieved at the decision to raise the Italian Legation in

China to the status of an Embassy.

Any attempt to follow the Italian lead in an attempt to court the favour of the Chinese Government is, in the opinion of my Government, to be deprecated. My Government do not consider that the time is ripe to raise the status of their Legation in China to an Embassy, nor would they consider taking such a step without prior consultation with the other Powers interested, namely, Japan, America and France.

On the 3rd June, 1929, Sir John Tilley had a conversation with Mr. Yoshida, then Vice-Minister for Foreign Affairs, on the subject of raising certain Legations in China to Embassies. To quote Sir John Tilley's despatch to the Foreign Office, "Mr. Yoshida said that the matter had been carefully considered, but no decision had been taken and it was Baron Tanaka's intention before taking any decision to consult the British and American Governments. The changed situation in China had, however, led him to defer this intention.

The Premier recognised that he was under an honourable obligation to England and America not to make a

change without consulting them. When I reminded Mr. Yoshida of the appeals which his Government had made for co-operation, and of the opportunity which this

question afforded for such co-operation, Mr. Yoshida said that Baron Tanaka regarded the policy of co-operation as his own and naturally put co-operation first when considering such a matter as the creation of Embassies."

I beg that you will call the attention of His Excellency, Mr. Hirota, to this letter. I am writing to Your Excellency in this form as being a continuation of the conversation which we had the other day on this subject.

I very much hope that I may shortly be in a position to send a reassuring telegram to my Government.

Yours very sincerely,
R. H. Clive

日中諸案件交渉
二

His Excellency

Mr. M. Shigenitsu,

H. I. J. M. Vice-Minister for Foreign Affairs.

(付記1)

拜啓。陳者、在支公使昇格問題ニ關シ、本月一日御來談ニ次テ、本月四日附貴翰ヲ以テ御申越ノ次第有之閱悉致候。本件ニ關スル帝國政府ノ立場ハ本月一日及五日御來談ノ際口頭ヲ以テ説明致シ置キタル所ナルモ、念ノ爲更ニ之ヲ左ニ反復致候。

(欄外記入)

帝國政府ハ東亞ニ於ケル帝國ト支那國トノ特殊緊密ナル關係カ他國ノ對支關係ノ比ニ非サルノ事實并日本國民カ對支國交ヲ特ニ重要視スルノ事實ニ鑑ミ其ノ在支使節ノ資格ニ付格別ノ考慮ヲ拂フモノニシテ夙ニ在支帝國公使昇格ノ方針ヲ決定シ右昇格實行ノ爲必要ナル費用ヲ大正十四年以來豫算ニ計上シ居ル次第ニ有之候。尙現任ノ在支帝國公使ニハ大使ノ官階ヲ有スルモノヲ充テ居ル實情ニ候。即チ帝國政府トシテハ前記日支關係ノ國際的及國內的特質ニ顧ミ在支帝國公使昇格方ヲ既ニ主義上決定シ居リ、唯タ其ノ實行

ノ時期ハ支那國ノ政情其ノ他内外各般ノ事情ヲ查察シ、且殊ニ近年東亞ニ於ケル事態ノ變遷ニモ顧ミ全然帝國政府獨自ノ見地ニ基キ、慎重決定セラルヘキ義ニ有之候。但シ今日帝國政府ハ在支帝國公使昇格實行ノ時期ニ關シ何等決定セル所無之候。即チ帝國政府ハ最近伊支兩國政府間ニ大使交換方ニ決シタル事實ニ付特殊ノ考慮ヲ拂ヒ居ラサル次第ニ有之候處、今後若シ昇格實行ノ時期ニ付テ新ナル決定ヲナシタル場合ニハ出來得ル限り速ニ之ヲ貴國政府ニ對シ通報致スヘク候。

就テハ右ニ御承知相成度此段回答得貴意候。 敬具。

昭和九年十月九日

重光 葵

サー、ロバート、エイチ、クライブ英國大使閣下

(欄外記入)

亜一、ニ返シ米大使側ニハ口頭ヲ以テスベシ

國ヲ先トシ日本其ノ他ヲ後ニスル意思ナカリシ譯ナレハ此ノ點惡シカラス御了解相成度シ又右伊支大使交換ニハ何等ノ條件モ附帶シ居ラサルヲ以テ此ノ點モ誤解ナキ様願度シト述ヘタリ

其ノ節同席ノ唐有壬ハ有野ニ對シ米國ニテハ伊支兩國間ニ飛行機賣込等ノ條件附帶シ居ルヘシト疑ヒ居ル模様ナルモ右ハ全然根據ナキ推斷ニテ此ノ點ニ付後日御參考ノ爲伊國側ト庚子賠償用途調査表ヲ御目ニ懸クヘシト私語シ居タル趣ナリ

依テ本使ハ汪ニ對シ本件ニ關シテハ曩ニ唐次長ヨリ本使及須磨總領事ニ説明ノ次第モアリ當時夫々政府ニ報告シ置キタリ日本政府ノ意嚮ハ其ノ後來(二)無キヲ以テ不明ナルモ伊支ノ決定ニ對シ別段誤解ヲ懷キ居ルモノトモ思ハレス恐ラク先般新聞ニモ發表セラレタルカ如ク昇格ハ日本側ニ於テハ六年前議會ニ於テ方針決定シ居リ何時ニテモ實現セシメ差支無キ狀態ニテ右ハ今日ニ於テモ變更無カルヘク目下獨自ノ立場ヨリ慎重考慮シ居ルモノト思考スル次第ナルカ折角御説明ノ事情ハ政府ニ報告シ置クヘシト答ヘ置ケリ

81 昭和9年10月12日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

伊国側の中伊間大使交換発表は独断によるものとの汪兆銘弁明について

南京 10月12日後発
本省 10月13日前着

第一〇〇一號(極秘)
有吉公使ヨリ左ノ通

「十一日本使汪兆銘ト會見ノ際汪ヨリ伊支ノ公使館昇格決定ニ關シ日本側ニ於テ何等誤解アルヤノ噂ヲ聞キ及ヒ居ル次第モアリ此ノ機會ニ其ノ經緯ヲ御話シ申上ケ度シト前提シ支那側カ列國トノ間ニ大使交換ノ希望ヲ有シ居タルハ數年來ノ事ニテ劉文島ハ右方針ニ基キ伊國側ト協議ヲ重ネ居タルモノナルカ曩ニ重光次官ヨリ蔣公使ニ對シ日本側ノ意嚮御話シノ次第モアリ日伊兩國トハ同時ニ大使ヲ交換ノ意嚮ナリシ處伊國側カ日本ヲ出シ抜き獨斷ニテ其ノ決定ヲ發表セル爲已ムナク支那側モ之ヲ發表スルコトトナレル次第ニテ右事情ヲ當時不取敢蔣公使ニ對シ日本側ニ説明方訓令シ置キタリ支那トシテハ當初ヨリ伊

支、北平ニ轉電セリ

82 昭和9年10月20日 広田外務大臣より
在中國有吉公使宛(電報)

在中國日本公使館の昇格は東亞における日本の立場に鑑み我が方独自で実行する方針の旨訓令

本省 10月20日後3時15分発

第二八一號(極秘)

(欄外記入) 南京發本大臣宛電報第一〇〇一號其ノ他累次ノ貴電ニ關シ多年ノ懸案タル在支公使館ノ昇格ノ件ニ付テハ東亞ニ於ケル帝國ノ地位殊ニ最近日支關係ノ發展ニモ鑑ミ適當ノ時期ニ昇格ヲ實行シ以テ帝國政府カ日支國交ヲ重要視スル所以ヲ表現スルト共ニ兩國關係ノ改善ニ資シ度キ方針ナリ而シテ本件ニ關シテハ從來英米等トノ間ニ種々ノ經緯アルモ帝國政府トシテハ既ニ豫算モ決定シ居リ單ニ昇格實行ノ時機ヲ決定スレハ足ル譯ニシテ日支間ノ特殊關係其ノ他東亞ニ於ケル帝國獨自ノ立場ニ顧ミ關係列國ニハ右時機ヲ決定ノ上ハ之ヲ通知スルニ止ムル筈ナリ尤モ右實行ノ時機ニ付テハ尙篤ト考慮ノ上成ルヘク速ニ決定シ度キ考ナルモ此ノ際

トシテハ我方ハ伊太利等他國側ノ支那ニ對スル迎合的措置ニ依リ何等影響セラレサル建前ヲ嚴守シツツ支那側ニ於テ其ノ對日態度ヲ一層改善シ來ルカ如キ事態ヲ次第ニ醸成セシメ行クコト肝要ナリト思考シ居レリ

就テハ右貴官限リ御含ノ上可然御措置相成度

南京、北平ニ轉電セリ

(欄外記入)

欧米方面へハ對英回答ニ関スル往電ニテ充分ナルヘシ

83 昭和9年10月29日

広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

在本邦中国公使よりの日中間大使交換の即時
實現方要望に対する大臣回答振りについて

本省 10月29日発

第二八六號

二十七日支那公使來訪シ特ニ汪部長ノ訓令ニ本ク趣ヲ以テ日支間大使交換速行方ヲ懇請セルニ付本大臣ヨリ自分ハ就任ノ當初ヨリ適當ノ機會ニ日支間ニ大使ノ交換ヲ實現シ度

キタルカ或ハ遠カラス右實行スルコトトナルヤモ知レスト語レルニ付本大臣ハ伊支間ニハ既ニ交換方ニ決定シ居ルコトニモアリ左様ノ御心配ニハ及ハサル次第ナリト應酬シ置ケリ

希望ヲ有シ時期ノ熟スルヲ待チ居ル次第ニテ右希望ハ今日モ捨テ居ラサルコト、日本國民ハ支那問題ニ付何事ニ拘ラス列國側ニ先鞭ヲ付ケラルコトヲ好マス從テ最近伊支間ニ大使交換ニ決シタルハ本件ニ付良キ影響ヲ及ホシタルモノトハ認メラレサルコト、伊支間大使交換ニ關シテハ伊太利飛行機賣込ノ條件アリトノ風説アル處右風説ハ眞實ニ非ストスルモ支那カ伊太利ヨリ多數飛行機ヲ輸入シ居ルコトハ動カス可カラサル事實ナルカ近年外支間各般ノ關係并支那側ノ對日態度等ニモ顧ミ日本ニ於テ大使交換ニ應スル場合國民ハ日本ハ右ニ依リ得ル所アリヤヲ問題トスヘキコト、五全大會ニ對シ西南派ハ激烈ナル排日決議ヲ提出スヘキヤノ情報モアル處若シ大使交換ニ決シタル後排日ノ蒸返シニテモ行ハレムカ國民ハ政府ノ措置ヲ攻撃スヘキコト等ヲ告ケ旁々本件ニ付テハ國內關係ヲモ充分考慮スルヲ要スル次第ニテ有吉公使ニ對シテモ先ツ以テ大使交換ニ都合ヨキ事態ヲ醸成セシムルコト肝要ナル旨ヲ電報シ置キタリト述ヘ置キタリ

右會談ノ際公使ハ日本側ノ思惑ヲモ考ヘ駐伊支那大使ノ任命發表ヲ暫時差控フル様囊ニ自分ヨリ本國政府ニ電稟シ置

滿、北平、南京、廣東、英、米ニ轉電シ英ヨリ土ヲ除ク在歐各大使及壽府ニ暗送セシメタリ